

研究種目：基盤研究 (C)  
研究期間：2006～2009  
課題番号：18520185  
研究課題名 (和文) 18 世紀イギリスの個人の体験とその共有についての文学的文化史的研究  
研究課題名 (英文) Sharing the narration of private life in eighteenth-century Britain  
研究代表者  
鈴木 実佳 (SUZUKI MIKA)  
静岡大学・人文学部・教授  
研究者番号：40297768

研究分野：人文学  
科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語文学  
キーワード：英米文学・西洋史・感受性・啓蒙・手紙

## 1. 研究計画の概要

### (1) 目的

この研究は、個人的感情・感性・観察・考察と、それを他者と共有したいと願う欲求の間をつなぐものとしての書かれたもの（手紙や個人の記録、そして出版物）を考察することである。

### (2) 資料

イギリス 18 世紀の人々が残している手紙・日記などの記録と小説などの出版物。

### (3) 研究内容のポイント

男性女性に関わらず、この時期の人々は、感受性を非常に意識し、自分や他人のたどってきた道を振り返り記録し、人生の物語を語ることによって、他者との繋がりを見出したり構築していったりしようと努める。この傾向を、sentiment と sociability、sensitivity と compassion を軸にして、文学の世界と慈善の場でとらえる。この時期に特徴的な、小説の興隆、出版市場の拡大、慈善活動の組織化とともに、膨大な数の個人の間での手紙の遣り取り、人生を記録することへの執着を、広い文化的文脈に置いて理解することに努める。個と社会、文学と現実の相互関係を探る研究でもある。

## 2. 研究の進捗状況

(1) 印刷物の普及や知識・情報の伝達の迅速化と広範化の進展がみられるなかで行われていた小説をはじめとする散文での斬新な試みに注目して、出版物の受け手となる人々の動向をつかまえようとする敏感なアンテナを張り巡らす作家の意思と、一方では大衆に迎合しまいという決意の交錯をセラ

ラ・フィールディング (1710-1768) を中心に考察した書物としてまとめることができた。同時に、感受性の文学、書簡体文学、学校物語、古典の翻訳について 18 世紀半ばの傾向を分析した。

(2) ジェイン・オースティンを題材にした研究では、18 世紀の小説によくみられる、個人が語る自分の過去の物語に執着するナラティブの傾向を受けて、その傾向の重視を受け継ぎながら、揶揄と主観的な語りへの警戒を加えて、個人の体験を語ること、そしてそれを受け入れることについて注目しながら、語りの技術を発展させ、コメントを加えていったという点に注目した。

(3) 最も力を入れているスペンサー伯爵夫人 (1737-1814) については、慈善の記録の中から、非常に頻繁に手紙を交わしていたメアリー・ジャクソンとの関係に関する論文、手紙・日記から、夫が最期を迎えるバースでの療養期に関する論文を用意しているが、投稿のための最後の詰めがまだできていない。

(4) 翻訳を行った『茶の帝国』は、筆者の社会人類学者マクファーレンがアッサムのプランテーションで過ごした幼少期の個人的体験が、明晰な学術的分析に織りこまれて歴史を解明する物語を形成するという形をとっており、ナラティブと作者と読者の関係を考える良い材料になった。他に、医学関係の人名事典で、日本の医療制度が新たな時代を迎えたころに活躍した二人の女性、吉岡弥生、荻野吟子の項目を執筆するため、伝記や伝記的小説を読む機会を得て、主な研究分野と時代も国も異なる分野の資料や作品にあたり、学ぶことが多かった。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。  
計画していた資料を読み、分析を行うことはある程度進んでおり、日本やイギリスの学会で口頭発表を行っている。ただし、英語による研究論文を英米の雑誌に発表するための準備は、かなり遅れているので、2009年度、2010年度に投稿できるよう進めるつもりである。

### 4. 今後の研究の推進方策

リサーチをスペンサーの娘デヴォンシャー公爵夫人に広げ、彼女がフィクションを出版したり、選挙活動に参加するなど、パブリックな場に出ていることに注目し、多くの手紙を書いたものの出版は行わなかった母親との対比を通して、貴族女性の活動について考察し、2009年6月1日の日本ジョンソン協会での発表の準備を進めている。また、9月にはスペンサー伯爵夫人と娘の手紙と日記を読むためイギリスでのリサーチを1週間ではあるが行って、更に論文の準備を進める。いずれは研究書としてまとめることを目標とする。その達成には、膨大な手稿資料を読むためのイギリスでのまとまったリサーチの時間を必要とする。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2件)

- (1) 鈴木実佳、「人生を語る人々 -- ‘A short account of myself, I believe, will be necessary’」『ジェイン・オースティン研究』、2(2008): 91-114. 査読有
- (2) 鈴木実佳、「ジェイン・オースティンと幸福感」、『文化と哲学』25 (2008): 71-90. 査読無

[学会発表] (計 3件)

- (1) 鈴木実佳、「人生を語る人々 -- ‘A short account of myself, I believe, will be necessary’」日本オースティン協会第一回大会 (於 明治学院大学白金キャンパス) 2007年6月30日
- (2) 鈴木実佳、「個人が語る物語への執着と懐疑: Jane Austen and an account of oneself」静岡大学哲学会 (於 静岡大学人文学部) 2007年11月3日。
- (3) Mika Suzuki, “Recording and sharing experience: ‘the Medicine of Life’”, The British Society for Eighteenth-Century Studies 38<sup>th</sup> Annual Conference 5-8<sup>th</sup> January 2009, St

Hugh’s College, Oxford .

[図書] (計 2件)

- (1) 鈴木実佳、知泉書館、『セアラ・フィールディングと18世紀流読書術』、2008、245頁。
- (2) Akihito Suzuki & Mika Suzuki, ‘Cholera, Consumer and Citizenship: Modernization of Medicine in Japan’, in Hormoz Ebrahimnejad ed., *The Development of Modern Medicine in Non-Western Countries: Historical Perspectives* (Royal Asiatic Society Books) (London: Routledge, 2008): 184-203.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0件)

○取得状況 (計 0件)

[その他]

事典項目執筆 Entries of 'OGINO, Ginko' and 'YOSHIOKA, Yayoi' in *Dictionary of Medical Biography*, ed. William F. Bynum and Helen Bynum (Westport, CT: Greenwood, 2007) .